

各館だより12 東京都公文書館

東京都公文書館は、公文書・行政資料類を継続的に収集・保存・提供し、修史事業を行なう機関として、昭和43年10月1日に東京都港区海岸1-13-17に設置されました。

修史事業は、明治34年の東京市会の決議に基づいて始まる遠大なもので、一世紀に垂んとする直営の継続事業として今日まで続いております。この間に出版された編纂刊行物も膨大な数ですが、この事業のおかげで収集・保存された史料も多岐にのぼっており、それらが現在貴重な史料となって多くの方々の利用に供されている事を考えれば、文書館制度のなかった時代の編纂事業が史料保存に果たした役割の大きさを思わせます。

現在の所蔵史料数は、江戸・明治期史料が8000冊、旧東京府文書が22400冊、旧東京市文書が12100冊、東京都公文書が81200冊、府・市・都の各部局で作成された行政資料類が58300冊、一般図書類が56700冊、地図類が1500点程で、年間約4000人の方々が来館され、これらの史料を利用されています。

ここ数年間の特徴的な事業としては、明治以降の行政文書類の件名目録作成事業、検索目録のコンピュータ入力事業、都庁舎移転



に伴う特別収集事業等がありますが、平成3年度からは所蔵全史料を対象にしたマイクロ化事業を新たにスタートさせました。

開館以来20数年を経、収蔵能力の限界に近づきつつあります。次の飛躍を考える時期にもなりました。
(水野 保)